

研修事例

受託研究

支援先

笠間焼産地

陶磁器用釉薬に関する研修

【内 容】

笠間焼産地内には、陶磁器用釉薬の科学的理論に関する教育や指導をする環境が整っている製陶所や工房が少なく、釉薬に特化した研修を笠間陶芸大学校で実施してほしいと要望されています。そこで、基礎知識習得が目的のレディメイド型研修と、試験方法の習得あるいは新規釉薬開発や既存釉薬改良などのさまざまな目的に対応可能なオーダーメイド型研修を実施しています。

令和元年度は、レディメイド型研修3名を受け入れ、表1の研修を行いました。今回の3名はいずれも、笠間の陶炎祭などのイベント出展やギャラリーでの個展開催など、すでに新進陶芸家として活動しています。活動の中で、釉薬に関する基礎知識不足やレベルアップの必要性を感じての受講でした。

表1 令和元年度レディメイド型研修の概要

期 間	7月1日～8月20日	
内 容	座 学	釉薬の基礎的な理論，試験方法などに関する講義
	実 習	代表的な釉薬試験方法によるテストピースの作製と考察 課題1. 三角座標 【釉薬42種 × 2焼成※ = 84個/人】 課題2. 色釉 【釉薬90種 × 2焼成※ = 180個/人】 課題3. ゼーゲル座標 【釉薬78種 × 2焼成※ = 156個/人】 ※焼成：①酸化焼成，②還元焼成

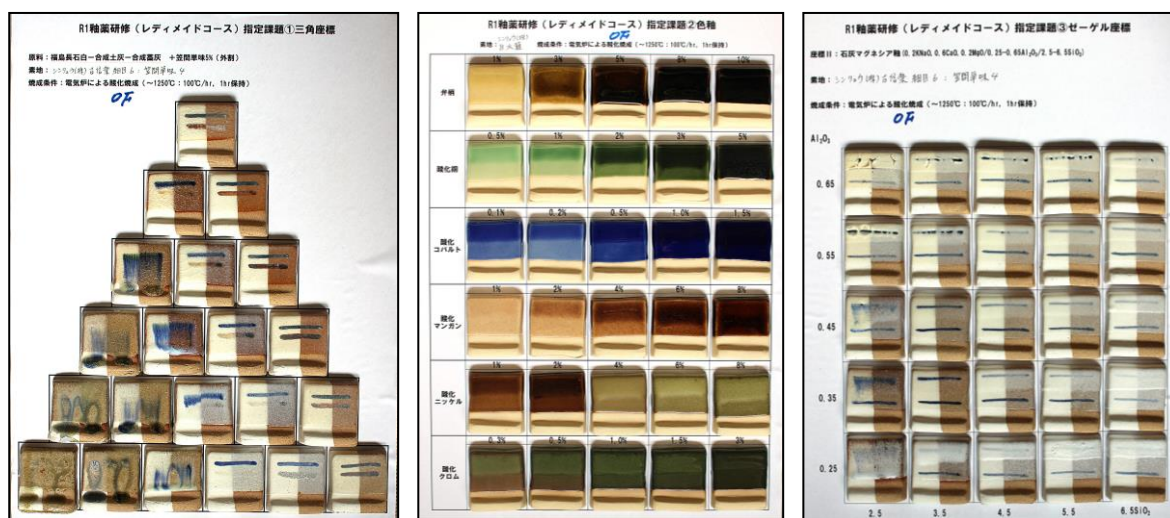


図1 釉薬テストピース（左から「三角座標」「色釉」「ゼーゲル座標」）

【研修の成果】

平成30年度に本研修を受講した浜中陶房では、研修で習得した釉薬技術を基礎として、当校の技術支援を含めた更なる釉薬技術のブラッシュアップにより透明釉を開発し、染付陶器を商品化しました（P.12参照）。

釉薬研修受講者の多くが習得した技術・知識を新製品開発などに役立てています。令和2年度以降も研修を実施予定ですので、ご興味のある方はお気軽にご相談ください。

基礎となった事業

令和元年度 オンリーワン技術開発支援事業（受託研究）

現在の担当グループ

窯業技術G

グループ長

寺門 秀人

TEL:0296-72-0316

主任研究員

吉田 博和